

県内

新型コロ

2021年初は従来型

12月						
日	月	火	水	木	金	土
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		



のホテルに集まっているが、ウエブ開催に切り替える。キッセイ薬品工業(松本市)は、本社に役職員が集まる年頭式を中止し、降旗喜男社長の年頭あいさつの動画配信を検討している。

レ

観光拠点「山の駅」からジャイアントスキー場に直結する志賀高原リゾート Gondola



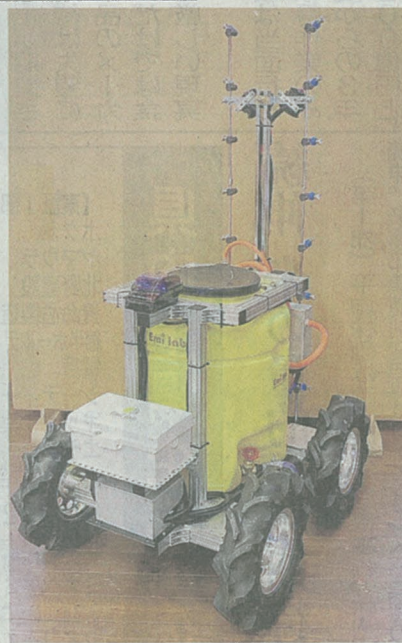
農家の負担軽減へ

農薬噴霧ロボット開発

麻場とイーエムアイ・ラボ着手

農業用噴霧機メーカーの麻場(長野市)と無人ロボット開発のイーエムアイ・ラボ(諏訪郡富士見町)が、車両型農薬噴霧ロボットの共同開発に乗り出した。農家の高齢化や労働力不足が深刻化する中、中山間地が多い県内の農業現場に適した製品を提供。負担を軽減するロボットの需

要は大きいとみて、来春にもモニター販売を始める。業務提携を視野に今秋、共同開発に着手し、ブドウ農家向けロボットを試作した。麻場は、素材にステンレスではなくセラミックを採用して耐久性を高め、噴霧の向きを変えられる長さ1.8メートルのノズルを製造。イーエムアイ・ラボは、



麻場とイーエムアイ・ラボが共同で試作した車両型の農薬噴霧ロボット

操縦機の操作に加えて自動走行も可能な幅0.9メートル、長さ1.8メートル、高さ0.8メートルの車両型ロボットにこのノズルを取り付けた。どちらが販売するかは検討中。価格は100万円以下とし、来年は10台の販売を見込む。

1949(昭和24)年設立の麻場は、農薬の種類や栽培盛んなリンゴやブドウ、野菜

作物に応じた形状のノズル製造技術を持つ。噴霧機は背負って使うタイプが多い。農家の高齢化に対応して省力化や効率化を目指し、小回りが利き、傾斜地でも走行可能な車両型ロボットに注目した。イーエムアイ・ラボは2019年設立で、長野市内に開発拠点がある。農薬噴霧ロボットの性能を高めるために、耐久性に優れ、噴霧の向きを変えられるなど高性能なノズルを求めている。

両社は今後も農家の声を取り入れながら、県内で栽培が盛んなリンゴやブドウ、野菜

麻場の麻場正紀副社長はとも長野市内に拠点がある両社が連携することで「大幅に開発時間やコストを削減できる」と期待。イーエムアイ・ラボの西教生社長は「長い歴史を持つ麻場のノウハウを借りて質の高いロボットを開発したい」としている。

経済 信州発

県内情報リンク

★優秀システム会社の「アワード」にネクストリンクス

一般社団法人日本ニアショア開発推進機構(東京)は17日、地方の優れたシステム会社を選出する「ニアショアアワード」の優秀賞にネクストリンクス(松本市)を選んだ。同社の受賞は2年ぶり2回目。潜在的な顧客のニーズもくみ取った上で、課題を解決するシステムを練り上げる「提案力」の高さが評価された。アワードは都市圏の大企業などと地方企業を結ぶ契機とする狙いで2018年から開催。今年は地方に事業拠点を置く同法人の会員企業約100社から選出した。受賞企業2社のうち、最優秀賞はWISHシステムコンサルティング(鹿児島市)。

新卒者積極採用「お願い」へ

県や経済団体 地元事業者に

県や経済団体、県市長会、県町村会などをつくる「県新卒者積極採用推進協議会」は17日、県庁で開本部会議。17日、県庁で開本部会議。17日、県庁で開本部会議。17日、県庁で開本部会議。

の影響で雇用情勢が弱含み、県内で大卒や高卒などの就職内定率が低下していることを踏まえた。今月中に阿部守一知事や地元市町村長らの連名で「お願い」を地元事業者

に配り、積極採用を呼び掛け「項」を決めた。新型コロナウイルス

長野労働局のまとめによると、県内の大学や短大、専門学校を卒業予定の学生の10月末時点の内定率は61.6%で、前年同期比で11年ぶりに低下。同時期の高校生も64.5%で、前年9月末時点と比べて1.8%低下した。

会合で同局の中原正裕局長は、厳しい就活状況から「高